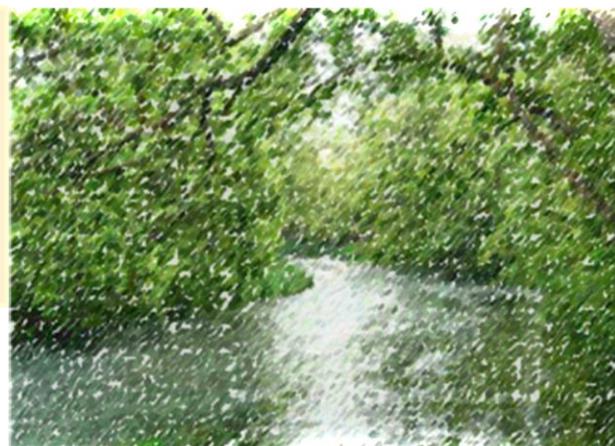


SDGsとISOの関係



NPO法人SDC検証審査協会
(株)アイソコンサルティング
紙野 研二

経歴書

2021年1月現在



紙野 研二 かみの けんじ 浜松市在住 1954年5月26日生まれ

【所属】 NPO法人 SDC検証審査協会、アイソコンサルティング 技術部長 シニアコンサルタント
【資格、学歴など】

- ・ISO主任審査員（ISO9001（品質）、ISO14001（環境））
ISO45001（労働安全衛生）審査員補
- ・経営実務支援アドバイザー（中小企業基盤整備機構）、静岡県専門家登録（産業振興財団）
- ・公害防止管理者（水質関係 第1種、大気関係 第1種、粉じん関係、騒音関係）
- ・作業環境測定士（第1種有機溶剤・第2種） ・エネルギー管理員
- ・東京教育大学(現筑波大学)農学部林学科木材工学専攻 1978年卒
高校2級、中学1級 理科教職免許

【業務経歴】

●株式会社河合楽器製作所（約37年間）

工場での現場品質管理～本社業務まで（経営企画、業務管理、環境管理）幅広く従事。

- ・木材加工 4年 木材技術者、材木加工品質管理
- ・本社経営企画 17年 経営計画立案、新規事業開発、M & A、広報 I R
- ・金属事業 6年 副事業部長、工場長 兼 子会社取締役 業務部長、ISO管理責任者
- ・環境管理 4年 公害防止、作業環境測定

●2015年6月～（定年後一時嘱託契約の後）独立

ISO 9001,ISO14001マネジメントシステム構築支援・審査業務（SDC検証審査協会・インターテック社）
および 各種研修・現場指導 など

【著書、指導実績】

- ・共著「不適合をゼロにさせる3H(初めて、変更、久しぶり)活用マニュアル」新技術開発センター
- ・月刊誌工場管理（日刊工業新聞社）。「3Hで学ぶヒューマンエラー対策」日科技連 2020.4発売
- ・ISO、品質管理のコンサルの実施(浜松市、名古屋市、岡崎市等、20社程度の実績)

【得意分野】

ISO、経営企画(事業企画、新規事業開発、IR)、環境管理(作業環境、公害防止)、品質管理、木材加工

目次

SDGsとISOの関係について下記のステップで説明致します。

- 1.SDGsとは何か、特徴は
- 2.SDGsの17の目標と169のターゲットとは何か
- 3.日本国のSDGs推進の施策は、状況は
- 4.企業はどのように取り組むべきか
- 5.地方自治体はどのように取り組んでいるのか
- 6.SDGsの認証制度はあるのか
- 7.SDGsとISOの関連はどうか
- 8.中小企業はどのようにSDGsに取り組むべきか
- 9.SDGs推進についてSDC、アイソが出来ることは

1.SDGsとは何か、特徴は

①SDGsとは

SDGsはSustainable Development Goalsの略で、**持続可能な開発目標**のことです。

2015年の国連総会で全加盟国が合意して、**2030年**までにそのような社会を実現することを目指しています。

②SDGsを一言で言うと

「**未来の世界の有るべき形**」といえます。また重要な理念としては「**だれ一人取り残されない**」ということがうたわれています。大原則として5つのPを頭文字とする理念が挙げられています。それは人間(People)地球(Planet)繁栄(Prosperity)平和(Peace)パートナーシップ(Partnership)です。

1.SDGsとは何か、特徴は

③SDGsの特徴は下記の2点が挙げられます。

1) **目標ベースのガバナンス**・・・17の目標とその下に169のターゲットがあり、毎年国連による「持続可能な開発目標報告書」に指数を使った進捗測定がされています。

2) **総合性**・・・17の目標は経済・社会・環境面で互いに関連して包括的、総合的に将来の社会の骨格を形作っています。



- 普遍性** 先進国を含め、全ての国が行動
- 包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「誰一人取り残さない」
- 参画型** 全てのステークホルダーが役割を
- 統合性** 社会・経済・環境に統合的に取り組む
- 透明性** 定期的にフォローアップ

外務省資料より



2.SDGsの17の目標と169のターゲットとは何か

①17の目標・・・17の目標は相互に関連しています。

国連持続可能な開発目標 (SDGs)

 <p>1 貧困をなくそう</p>	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する	 <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>	各国内及び各国間の不平等を是正する	 <p>16 平和と公正をすべての人に</p>	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
 <p>5 ジェンダー平等を実現しよう</p>	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う	 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する	 <p>17 パートナリシップで目標を達成しよう</p>	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	持続可能な生産消費形態を確保する		

環境省資料より



2.SDGsの17の目標と169のターゲットとは何か

②169のターゲット

17の目標には明確な数値目標がありません。ただし、その下の169のターゲットにはより明確な目標が掲げられています。例えば

- 1)ターゲット1.1・・・国際的な貧困ライン(1.25ドル/日)未満での生活者をゼロにする。
- 2)ターゲット2.2・・・2015年段階で7億8400万人いる栄養不良の人をゼロにする。
- 3)ターゲット3.6・・・2020年までに世界の交通事故を半減させる。
- 4)ターゲット4.1・・・2030年までにすべての少年少女が質の高い教育を受けられるようにする。
- 5)ターゲット6.2・・・2030年までに屋外の排泄をゼロにする。
- 6)ターゲット7.3・・・2030年までに世界全体のエネルギー効率を倍増させる。

……………などです。

3.日本国のSDGs推進の施策は、状況は

①持続可能な開発報告書(ドイツ、ベルテルスマン財団)によるとSDGsの国別進捗率では**日本は15位**(1位デンマーク、2位スウェーデン、3位フィンランド、4位フランス、5位オーストリア)で目標5、12、13、17に課題があるとの評価を受けています。

②日本としては下記の施策を実施しています。

1)**SDGs推進本部**の設置と実施方針の策定(2016年)

毎年**アクションプラン**の発表。2019アクションプランには「中小企業におけるSDGs取り組み強化」が強調されました。

2)良い取り組みをした組織の表彰(**ジャパンSDGsアワード**)の設置(2017年)

3)地方自治体の活性化のため**SDGs未来都市**の選定

2018年29都市(浜松市、静岡市含む)、2019年31都市追加。(名古屋市、豊橋市含む)2020年までに93都市が選定されました。

4.企業はどのように取り組むべきか

①年金管理運用機構(GPIF)の2019年アンケートによると
一部上場企業の45%がSDGsに取り組み始め、検討中が39%で**合計80%以上の企業**が何らかのアクションを開始している。

②なぜ急に盛り上がったのか？

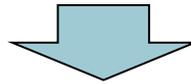
- ・企業評価基準の変更。SDGs関連株式への投資増
- ・IR(投資家向け広報)上に有利
- ・いよいよ持続可能性に暗雲が立ちこめてきた(異常気象等)
- ・金融機関のSDGs関連への有利な金利
- ・すでに一部上場企業はSDGs関連の施策を行っている

③企業のSDGsの取り入れ手順(例)

- 1)自社の事業とSDGsとの関係づけ(マッピング)
- 2)目標・ターゲットの作成
- 3)企業ビジョン、中期経営計画とSDGsの統合
- 4)環境社会報告書、CSR報告書等での社外発表

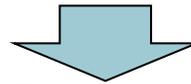
5.地方自治体はどのように取り組んでいるのか

① SDGsの地方自治体への国策としては「SDGs未来都市」の選定がまず挙げられます。SDGs未来都市とは「経済」「社会」「環境」が持続可能な開発の中で相乗効果を出すことがコンセプトですが



②しかし2018年にまず29都市として選定された浜松市に住んでいても「SDGs未来都市」の実感はあまりありません。

③一方、先進的な地方自治体としては長野県があります。2017年から関東経済産業局や地元の八十二銀行と組んで地域でSDGsの目標達成を目指す企業を応援する「緩やかな認証制度」を行っています。



④静岡市にも長野県と似た「SDGs宣言制度」があります。

⑤やはり活動主体は地方自治体としても日本共通の推進策は必要です。

6.SDGsの認証制度はあるのか

- ①SDGsに認証制度はありません。それはSDGsが目標ベースのガバナンスであり、ISOのように、要求事項がないためです。
- ②ただし認定制度がないと「本当に活動しているのか？」と考えてしまいます。単に企業、地方自治体の広報のネタにされてはいいないか、と思ってしまうです。
- ③強いて認証制度をあげると良い取り組みをした団体に「ジャパンSDGs アワード」があり、または前述の長野県の「緩やかな認証制度」などがあります。
- ④環境に関しては温暖化ガスの排出削減目標を企業が設定して推進するSBT (Science Based Target) という取り組みがあり、日本は2020年にアメリカに次ぎ第2位の86社がコミットメントを表明しています。

7.SDGsとISOの関連はどうか

ところで認証・適合システムであるISOとの関係はどうでしょうか

①SDGs17の目標中、**11目標**がISOに関係しています。

目標3、4、5、6、7、8、9、11、12、13、14の中にISOの目的に近いターゲットがあります。

②SDGs169のターゲット中、**15ターゲット**がISOに関係しています。

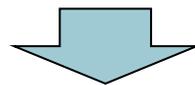
詳しく見るとターゲット3.9、4.3、5.5、6.3、7.2、7.3、7.a、8.2、8.5、9.4、11.6、12.4、12.5、13.3、14.3がISOの目的に近いと考えられます。

ISOの種類別には下記の通りです。重複はあります。

ISO14001環境・・・・・・・・・・13ターゲット

ISO9001品質・・・・・・・・・・5ターゲット

ISO45001労働安全衛生・・7ターゲット



よって、組織特に一般企業は**3種類のISOをバランス良く実施することでSDGsの推進が可能と言えます。**

8. 中小企業はどのようにSDGsに取り組むべきか

< SDGs の活用によって期待できる 4 つのポイント >

ポイント 1 企業イメージの向上

SDGs への取組をアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より**多様性に富んだ人材確保**にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらします。

ポイント 2 社会の課題への対応

SDGs には社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっています。これらの課題への対応は、**経営リスクの回避**とともに、**社会への貢献**や**地域での信頼獲得**にもつながります。

ポイント 3 生存戦略になる

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっています。今後は、SDGs への対応がビジネスにおける**取引条件**になる可能性もあり、**持続可能な経営を行う戦略**として活用できます。

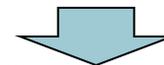
ポイント 4 新たな事業機会の創出

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業の創出など、今までになかった**イノベーション**や**パートナーシップ**を生むことにつながります。

環境省 SDGsガイドブックより

このままでは2030年にSDGsの目標は達成できないと思います。草の根の活動も必要です。

①現在の中小企業にとってSDGsは遠い存在のようだと思います。左図は環境省が作成したSDGsガイドブックでの企業のメリットを示しているものです。中小企業にも一部は当てはまると思います。ただし中小企業としては前述の通り一部上場の企業の約80%がSDGsに関する取り組みを開始したということで、今後サプライヤーとして安穩とはしていかれなくなるかもしれません。



②サプライチェーン企業として将来、取引先企業からSDGsの活動の要求が来る可能性は大きいと思います。



③その際に慌てないように、いまからISOの運用を通じてSDGsに関わることをお奨めします。

9.SDGs推進についてSDC、アインが出来ることは

SDC検証審査協会とアインコンサルティングがお手伝いできるのは下記の通りです。

①アインコンサルティングによる**コンサルタント**業務(指導・支援)

- 1)自社の事業とSDGsとの関係づけ(マッピング)
- 2)目標・ターゲットの作成
- 3)ISO(14001、45001、9001)の取得
- 4)企業ビジョン、中期経営計画の作成とSDGsへの統合
- 5)環境社会報告書、CSR報告書等での社外発表・広報活動

②SDC検証審査協会による**適合性診断業務**

- 1) ISO(14001、45001、9001)の自己適合宣言での適合性診断
- 2)SDGs目標に対する進捗度の診断・指導

SDGsは基本的に自己適合宣言ですが第三者の評価も必要と思われます。出来るところからまず開始しましょう。 **以上**

ご清聴ありがとうございました

SDGsとISOの関係



質疑応答

kamino2004@almond.ocn.ne.jp